

リングでビレーした。

この上の小滝は何なくパス。この少し上流左岸には骨組みだけが残った小屋の残骸があった。このあたり滝はしばらくかからないが、イワナの姿を時々みかける。1匹手づかみでつかまえた。16cm。小さいので逃す。魚止めはこの先2mの滝であった。

魚止めに続く小滝群を越えると二俣。左に入る。するとすぐまた二俣。左は水がないので、今度は右に入る。しばらく歩くと、炭焼きの跡が随所に見られるようになった。

水が濁れた所で進行終了とし、少し戻った後、踏跡を使って戻る。

(記・)

【タイム】 布入部落(9:15)→布入川(9:30)→後沢出合(10:05)→丸木橋(10:40)→進行終了(13:00)

草崎沢(下降)

1984年8月4日

コルよりすぐ下の草崎沢に降りる。所々にナメが出てくるが、楽々下降である。

やがて小滝がいくつか出てくるが、特に障害となるようなものはない。

沢も終わりとなる頃、6mの滝が出てきた。この沢で初めての滝らしい滝。クライミングダウンするとまも

なく二俣。ここから下の道路まで続く踏跡に上がって、下降終了とする。

(記・5)

【タイム】 下降開始(11:30)→終了(12:25)

井戸沢

1984年8月4日

草崎沢を井戸沢出合まで、クモの巣に悩まされながら歩く。水も少なく、河原歩きである。所々踏跡がみられた。

9:35井戸沢出合。ここは伐採・植林されている。

井戸沢に入ると、すぐに兩岸が狭まり、最初の滝3m。何なく越えて先に進む。

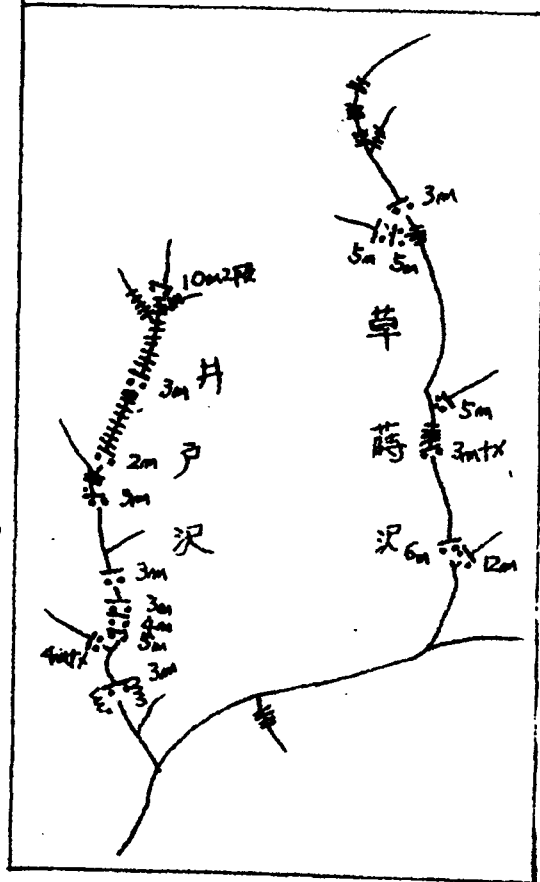
左側から滝となって支沢が合流したあとは、5m前後の滝の連続となる。

ここを過ぎると、伐採によってヤブがひどくなった中を苦勞して進まねばならなくなる。その伐採地も、ナメが出てきたあたりで終わりとなった。

小滝をまじえたナメを遡ると、水も少なくなってくる。最後の華をかざるように10m二段の滝があった。

水もなくなり、尾根に向けて上がってゆくと、カモシカに出合った。しばらく一緒に尾根に向けて上がる。尾根にて現在地を確認して、草崎沢の下降点へと歩く。

(記・



【タイム】 井戸沢出合(9:35)→終了(11:50)

馬道沢

1984年8月4日

林道ぞいの何もない沢とわかっていても、地域研究を進めてくるうちに入らざるをえなくなってくる沢のひとつがこの馬道沢である。水はかすかに流れている程度。